

由来自分の好きなし物をする人に行きかゝる

影言ふたれのこと、その人は自然な事、ことある

その人から吸収するものは吸収し、腹

取^出事、その人は採取し、自分の滋養分にする。こ

とは好むし、それは決して模倣とは云へず

。自分の心の中にあるものをかりである。

若し自分の心の中に在り、その場を

と模倣と云ふ。従つて模倣は本質的の心

はなく、その外觀のつりしさに止まる。私心

に本誌の鑑賞之學に就き、云々し、七の

10 落

10

No.

川崎備寛